

# 一、科研の沿革

本所は科学研究及びその成果の工業化を使命とする総合研究機関であつて、大正六年三月財団法人理化学研究所として発足して以来、物理、化学兩部門に亘つて幾多の輝かしい業績を挙げ、我国学会及び産業界に多大の貢献をして来た。しかるに終戦後、連合軍總司令部の指示により昭和二十三年三月財団法人組織を解散し、特別法公布の下に株式会社改組し、名称も科学研究所と変更したのである。

株式会社となつて以来、研究の重点を従来の純粹研究から応用研究に移して着々その成果を挙げ研究成果の工業化に努める一方、研究資金を得るために生産部を設け自ら生産に従事した。しかしながら自ら生産に当ることは一般産業界に貢献すべき使命にも反するし、又運営上にも支障があるので、本年八月一日新資金を得て新たに株式会社科学研究所を創立し、従来の研究部門の施設を引継いで研究専門の会社とし、今迄の株式会社はその名称を科研化学株式会社と改め純然たる生産会社としたのである。

今回の改組の狙いは、あくまで研究に専念することにより産業界に貢献すると共に、研究に対する財政的基礎を確立するにあつたが、幸い金融界並びに財界多数の援助により研究会社として再出発することを得た。本所の使命が科学技術の振興に寄与することにより、我国産業の発展に聊かなりとも貢献することにあるので、従前から政府、学界、金融界、産業界等各方面より理解ある指導と援助とを受けて来たのであるが、本社としてもその使命觀に徹し、純粹科学の研究、研究成果の工業化及び各種産業に対する科学的助言と指導等に邁進し各界の期待に副いたる所存である。

## 会社略歴

大正二年六月 高峰讓吉博士の提唱により調査委員会組織さる。  
大正三年十一月 農商務省に調査会設置さる。

大正四年四月 理化学研究所創立草案なる。

大正五年三月 国庫補助法公布さる。

大正六年三月 財団法人理化学研究所設立認可さる。

御下賜金壹百万円、政府補助金貳百万円、民間寄附金貳百五拾万円を以つて発足す。

總裁 伏見宮 貞愛親王

所長 理学博士 菊池大麓

工学博士 古市公威

工学博士 大河内正敏

總裁 伏見宮 博 恭 王

所長 理学博士 仁科芳雄

法律一三二号「財団法人理化学研究所に関する措置に関する法律」公布さる。

右特別法により財団法人を株式会社に変更す、

資本金五百万円。

〃 壹千万円に増資す。

〃 貳千万円に増資す。

社長 阪谷希一

研究会社として株式会社科学研究所を設立す、

資本金四億円（一億五百四拾万円払込済）

会長 工学博士 龜山直人

社長 村山威士